蒲江の特徴的な昆虫

蒲江のアサギマダラ

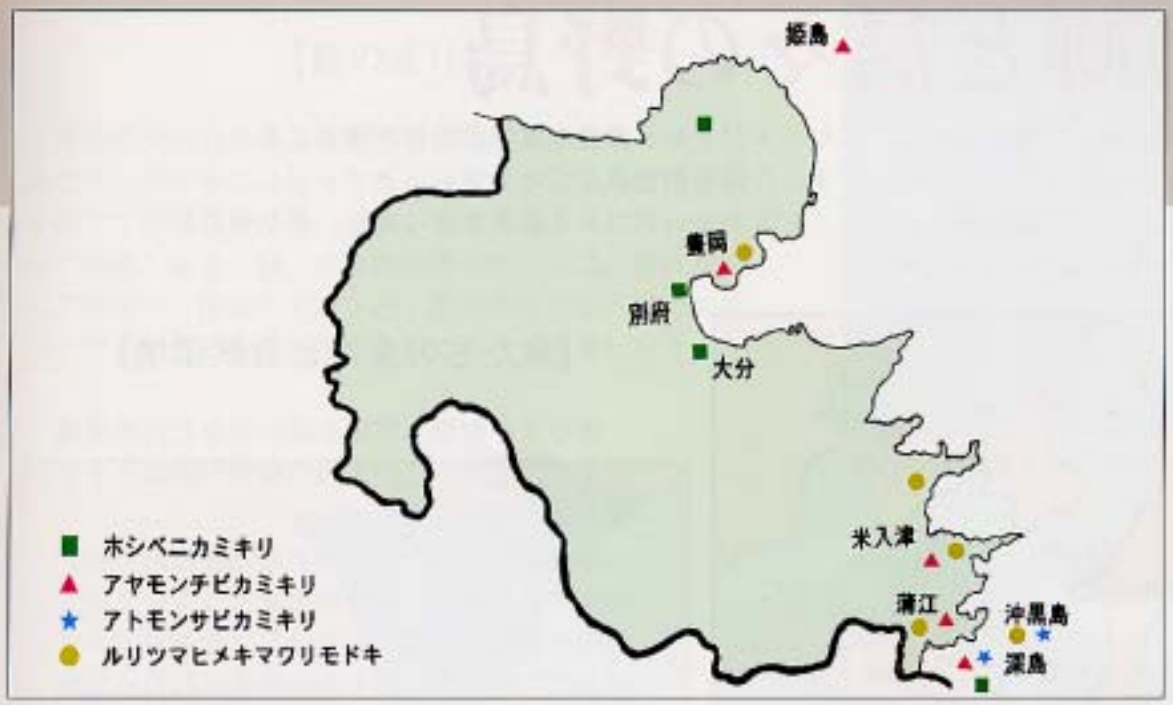
チョウは50種近くの生息が確認されています。特別に珍しいとか，貴重な種の生息は知られていません。５月には大方の種が一斉に羽化し，乱舞します。中でもアゲハの仲間は大型のものが多く，ナガサキアゲハやモンキアゲハは，県内の他のどの地域よりも数の多さが目立ち，これが黒潮と常緑広葉樹林の豊かな日豊海岸の自然の特徴となっています。

台風で運ばれてくる南国のチョウ（迷蝶）の確認事例は少ないけれども，自ら渡ってくるアサギマダラにとっては，渡りの上から重要な中継地域のように思われます。

地域全体に亜熱帯の空気が感じられますが，そこに生育する植物は直接それを訴えてきます。例えば，ハマユウノの群生はそれだけで南国を感じさせて嬉しくなりますが，そこには植物との関係なしには生きられない昆虫が必ずいるものです。ハマオモトヨトウがそれです。ただ，ハマユウの美しい葉と花を観賞する人間にとって，葉を食害し，大きな被害をもたらすこの虫は，残念ながら大害虫ということになります。今はこの虫の生活サイクルをつかんで防除し，美しい葉と花を楽しめるようになりました。

食事中のハマオモトヨトウの老齢幼虫

日豊海岸に多いアヤモンチビカミキリやアトモンサビカミキリをはじめ，ホシベニカミキリ，ルリツマヒメキマワリモドキなどは南方系の昆虫と思われます。これらの昆虫の大分県内における分布は図の通りです。昆虫の生息は，そこに餌となる植物や昆虫の存在することが第一条件です。食餌との関係はどうなのか，もっと調査がすすむと，それぞれの生息地域が線上となって，分布が明らかになってくると思います。



南方系昆虫４種の分布状況

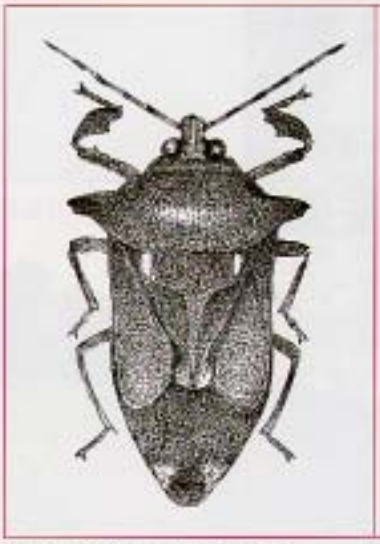
古い図鑑などで稀な昆虫とされてきましたウシカメムシは，県内の沿海部では採集記録がやや多く，クマノミズキの外，ミカンの樹でも採集されています。それにひきかえ，内陸部では記録が全くありませんので，これも暖かい地方の昆虫のように思われます。甲虫のアミダテントウも同様の分布を示しますが，こちらは肉食です。餌となる昆虫やその分布との関係はまだ全く明らかにされていません。

ウシカメムシ

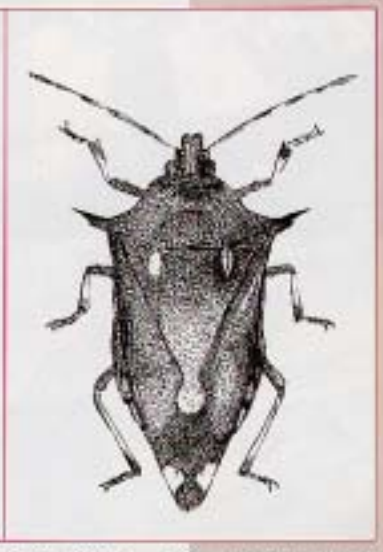
沖黒島は海面から30m以上も高い所にビロー樹が生え，島の生成の不思議を感じさせます。また，一歩足を踏み入れると，県内の他の島と違った南国の気配を感じます。そして，出会うオオミスジマルゾウムシ，カタオマルクチカクシゾウムシ，ヒサゴクチカクシゾウムシ，ニッポンモモブトコバネカミキリ，シモフリクチブトカメムシなどは，大分県内の他の地域で確認されていない珍しい昆虫です。

シモフリクチブトカメムシについて，その姿を近似種のキュウシュウクチブトカメムシと比較して見てください。

日豊海岸はくわしく調査するとまだまだ新しい昆虫に出会える夢の多い地域です。



シモフリクチブトカメムシ



近似種のキュウシュウクチブトカメムシ